

講演会に係る報告書

特定非営利活動法人子どもリエゾンえひめ

1. 実践内容

(1) 子どもをとりまく現状と里親制度について、広く周知啓発を行うと共に地域社会の理解と促進をめざすことを目的とする。

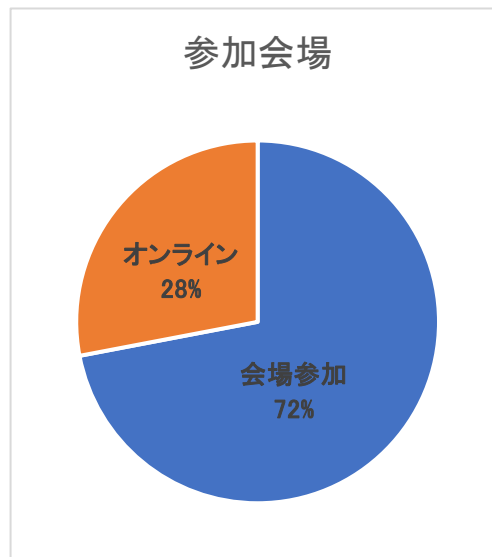
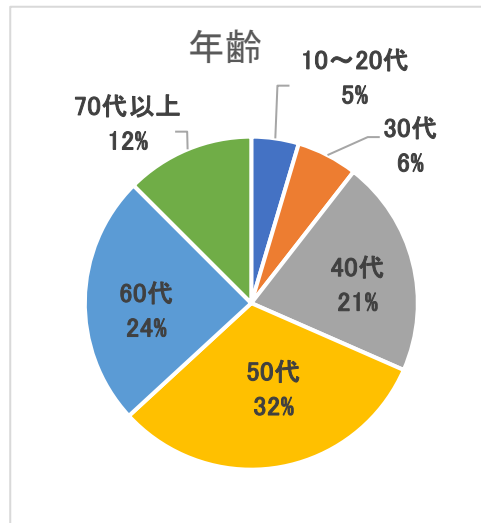
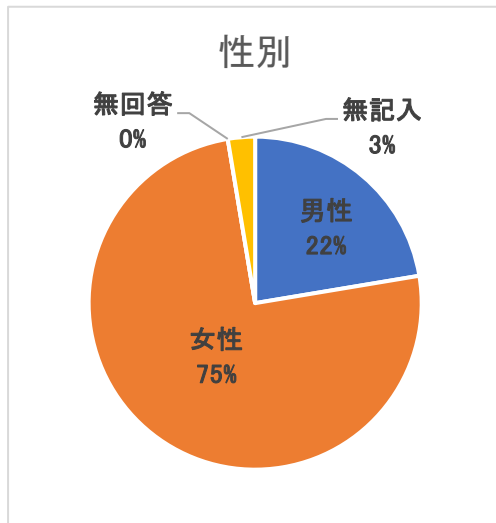
(2) 開催日時: 2023年6月4日(日) 13時30分~15時

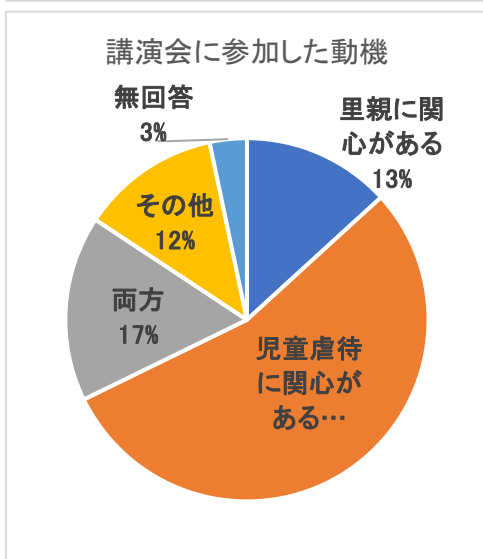
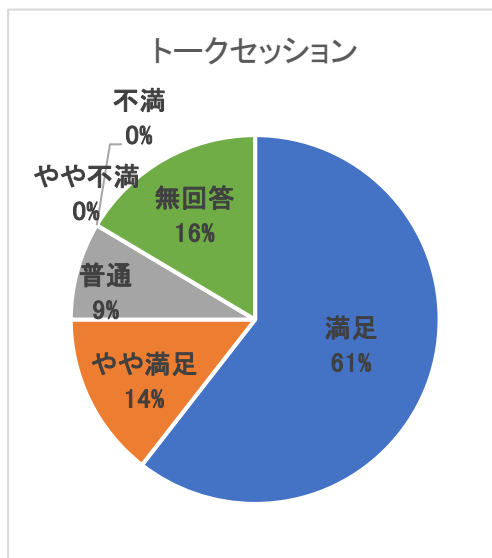
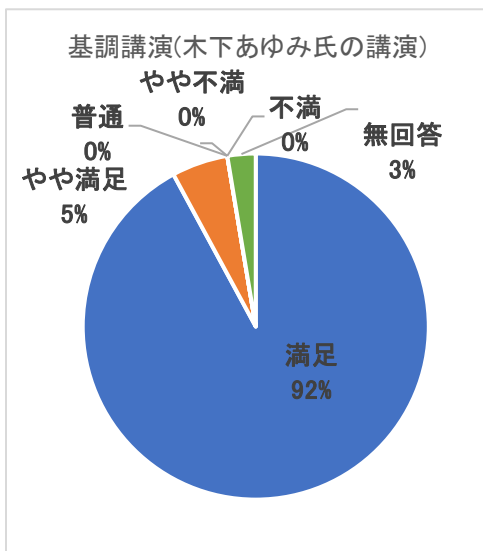
会場: 松山市総合福祉センター 大会議室(松山市若草町8番地2)

オンライン(zoom)

参加者: 250名(一般、里親、児童福祉・地域福祉関係者等)

2. 評価(アンケート結果)





(その他を選択された方の回答)

- ・自分にできることを考え中。
- ・講演内容に興味があった。
- ・里親関係の仕事をしているため。
- ・子どもたちの笑顔に何か役に立ちたい。妊娠相談について知りたかった。
- ・人間性の成長に関心がある。
- ・子どもに関することに関心がある。
- ・里親になったばかりなので、色々と勉強したくて。

(参加者の感想)

- ・木下先生のお話が大変印象的でした。親を犯人扱いして、責めても、子ども虐待は何の解決にもならなかった。だから、違うアプローチをしようというメッセージに共感を持ちました。
- ・里親について勉強させてもらいました。周りの大人が、子どもたちに何ができるのか、おせっかいになることも躊躇せずにつながることもできるのだと感じることもでき、自分のひとおしになった講演会でした。ありがとうございました。
- ・児童虐待防止について医療とのネットワークの構築が市町で進んでいけばと思います。医療との連携が課題となっているので、現状の理解と今後どのように進めていけばよいかなど、このような講演の機会が増えていけばよいと考えます。
- ・虐待を受けた子どもと保護者の傾向について改めて見直すことができた。今後の仕事や生活に活かしていきたい。
- ・こどもリエゾンの理解が出来て良かった。
- ・明らかな虐待に至るまでの、治療を必要とする子ども達も多くなっています。今生きている子どもを社会全体で育てていける環境を作ることがとても大切だと理解できた。
- ・愛着形成、安全基地について、改めて大切さを感じましたが、重みも感じてしまいま

した。ただ、子どもにとっては大事な事なので、前向いてやっていきたいと思いました。

- ・児相の人材不足、24 時間の対応で職員が体調を崩している現実。本当に必要なケースワークがしたいのにできない現場の状況も世間に知ってほしい。本当に介入が必要な子にすぐ対応できるようになってほしい。
- ・家庭養育の必要性を理解しつつも、子どもの発育や発達障害が多様化している大変さを感じています。支援する側が余裕をもって子どもと関わり、様々な子どもの理解を深めていく必要を感じました。
- ・身近に子どもリエゾンが立ち上がったことを嬉しく思います。自分の今までの経験もどこかで活かせたらと思いつつ一歩がふみ出せずにいます。今日のお話を聞いて、自分の役立つ場所を探そうと思いました。
- ・虐待を受けた子どもたちの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて感じました。子どもからの話の聞き方も今後の支援で活かしていきたいと思います。親の支援者になる事が多い立場ですが、親の支援者、子どもの支援者…とバラバラで対応するのではなく、関係者が情報共有をすることが大切だと思いました。
- ・いかに愛着形成を続けていくかのお手本を木下先生に見せていただいた気がします。子ども食堂を月 1 行っているのも、周りの子どもに寄り添い、一言でもいいので関心を示していこうと思いました。
- ・おせっかい、一歩踏み出すという意識を持つ大切さを知れたのは良かったです。里親登録をしたことは自分にとって一歩踏み出したことだが、ここからさらに何かできることを探していけたら良いなと思いました。ありがとうございました。

(振り返り)

- ・講演会の「満足」「やや満足」の項目が合わせて 97%と大変好評だった。トークセッションについても概ね好評だった。
- ・児童福祉関係機関からの参加も多くあり、連携協力への足掛かりとなった。
- ・里親や里親に関心のある方の参加もあり、今後の里親支援につながる関係性を作ることができた。

3. 課題

- ・集客についてさらに検討・模索が必要。
- ・里親、里親に関心のある方の参加割合増加。
- ・託児ルーム、子どもを連れていても会場に来られるような配慮が必要。

4. 今後の対応

- ・HP の拡充、SNS の効果的な利用。
- ・チラシ等の配布先検討、関係機関へのアプローチ。
- ・里親、里親に関心のある方との関係性の構築、つながりを広げる。
- ・託児ルーム等の検討

以上

作成日：令和 5 年 6 月 30 日